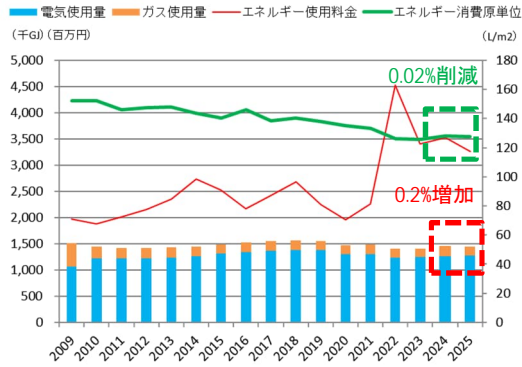
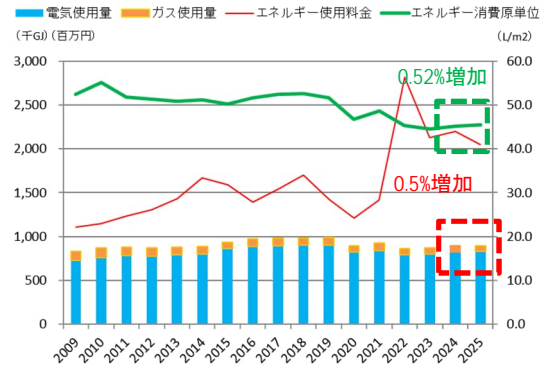


エネルギー使用量の報告[R7年度]

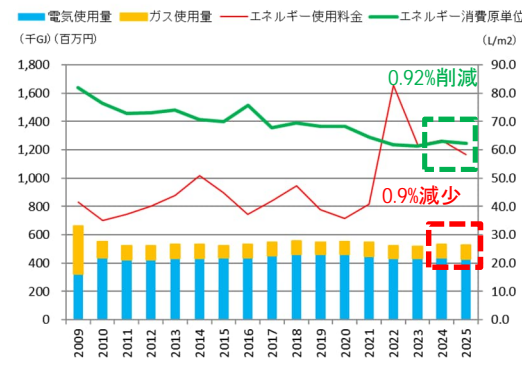
名古屋大学の主要3団地(東山、鶴舞、大幸)の電気・ガスの総エネルギー使用量は、前年度比で0.2%増加し、概ね横ばいで推移した。エネルギー消費原単位は0.02%減少した。



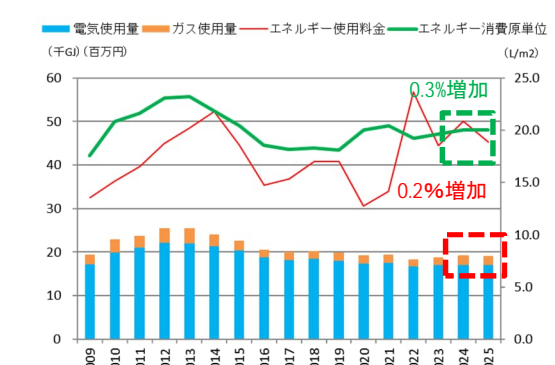
主要3団地合計(東山・鶴舞・大幸)



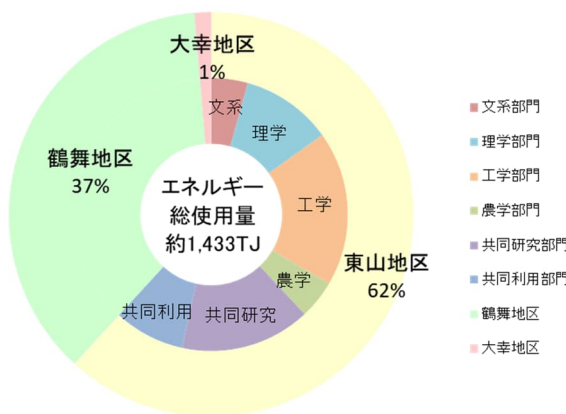
東山キャンパス



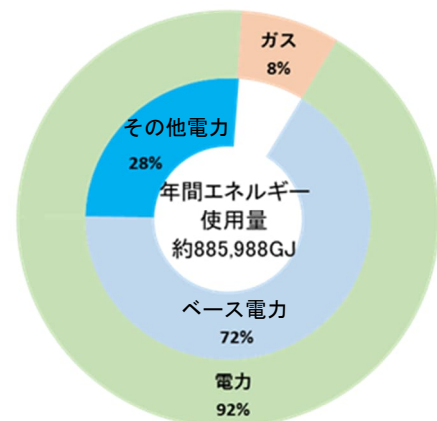
鶴舞キャンパス



大幸キャンパス



令和7年度 部局別エネルギー使用



令和7年度 東山地区エネルギー使用量比率

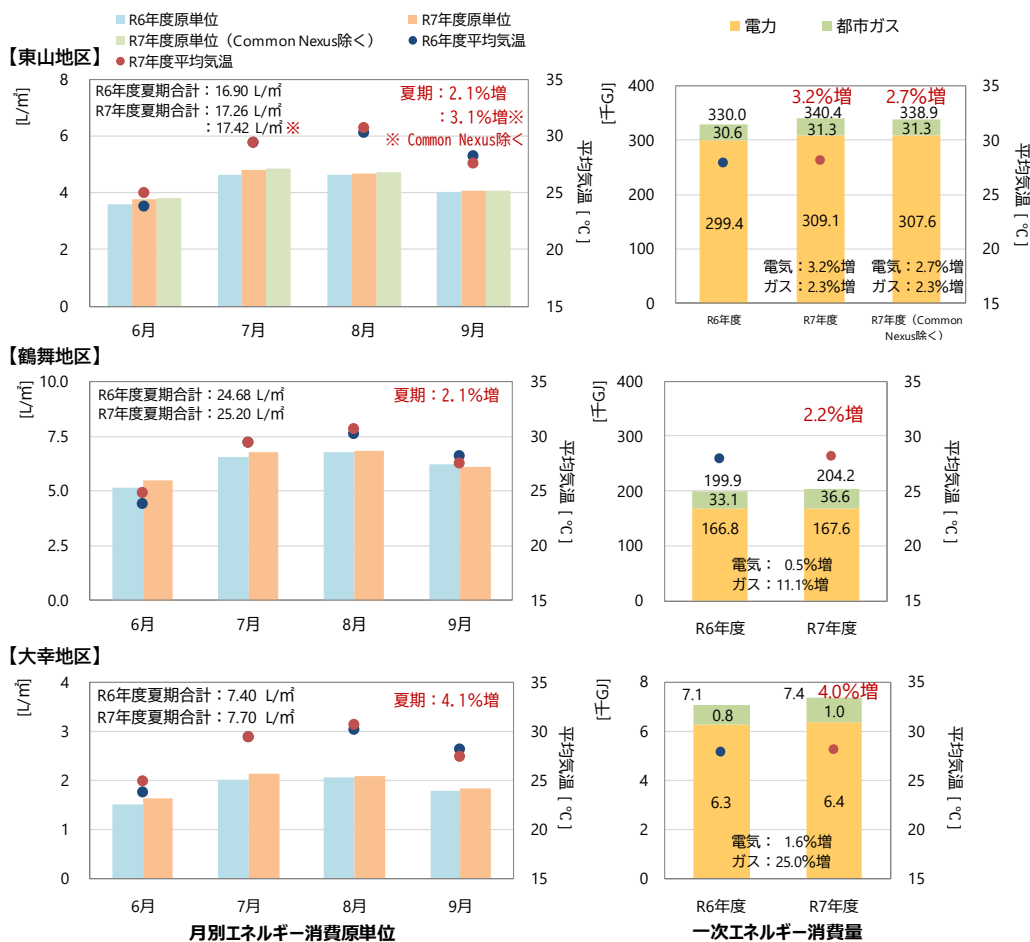
省エネアクト for ゼロカーボンキャンパス NU2025（上半期）の報告 ～エネルギー使用量の報告 [R7 年度 夏期]～

<主要 3 団地全体のエネルギー消費：夏期>

一次エネルギー消費量：536,845 GJ ⇒ 551,958 GJ (2.8%増)
 ⇒ 550,466 GJ (2.5%増) ※
 エネルギー消費原単位：18.79 L/m² ⇒ 19.17 L/m² (2.0%増)
 ⇒ 19.31 L/m² (2.8%増) ※

(期間 夏期：6月1日～9月30日) ※Common Nexus 除く

	エネルギー消費原単位[L/m ²]		最大電力[kW]		最低(ベース)電力[kW]	
	R6 ⇒ R7 年度	【前年度比】	R7 年度	【契約電力比】	R7 年度	【前年度比】
① 東山	16.90 ⇒ 17.26	2.1%増	18,116	103% 7/7 14時	7,180	99% 6/2 3時
① 東山※	16.90 ⇒ 17.42	3.1%増				
② 鶴舞	24.68 ⇒ 25.20	2.1%増	8,275	99.8% 9/1 15時	3,850	103% 6/1 3時
③ 大幸	7.40 ⇒ 7.70	4.1%増	458	97.8% 7/28 12時	140	97% 6/2 4時



【月平均気温差 R7-R6】 6月：+1.1℃、7月：±0℃、8月：+0.5℃、9月：-0.7℃

<考察>

R7 年度は、R6 年度と比較して猛暑日(最高気温 35℃以上)が 4 日増加するなど猛暑による空調負荷増加の影響により、エネルギー使用量は増加した。また、R7 年度は快適性・生産性を考慮し、冷房時における室温の目安を 28℃から 27℃に緩和したことも、増加の要因と推測される。

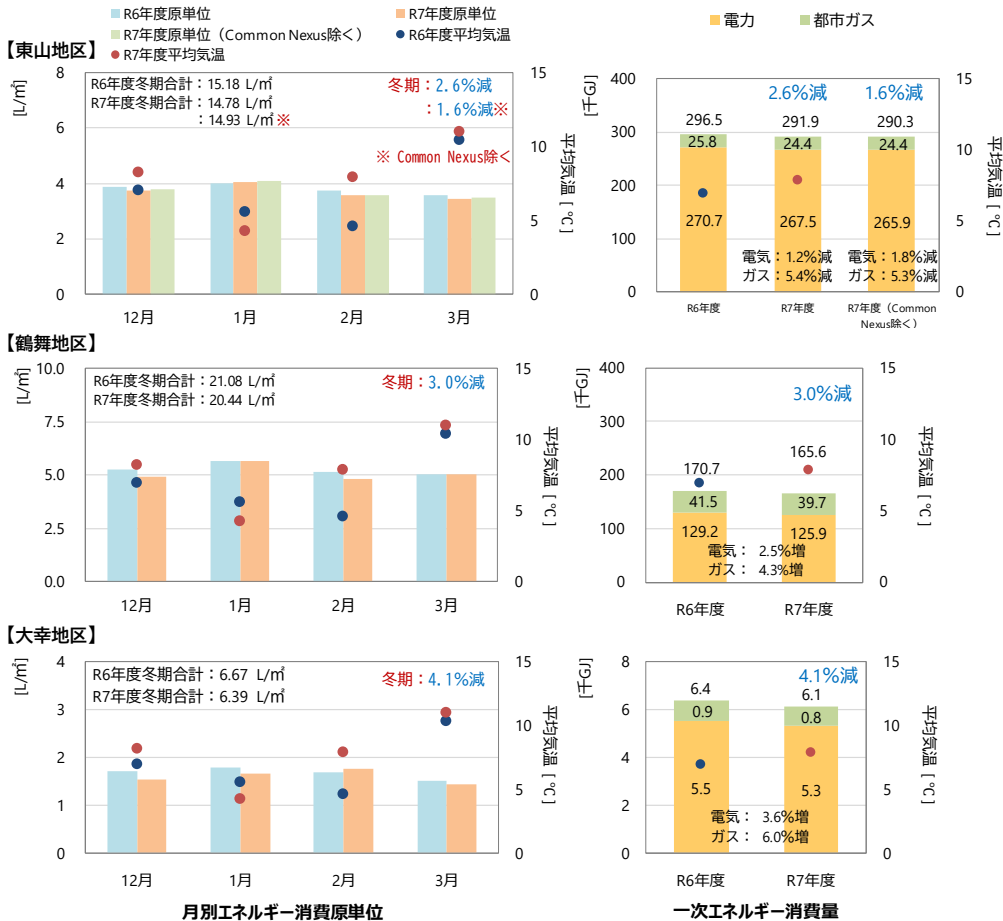
省エネアクト for ゼロカーボンキャンパス NU2025（下半期）の報告 ～エネルギー使用量の報告 [R7年度 冬期]～

<主要3団地全体のエネルギー消費：冬期>

一次エネルギー消費量：473,480 GJ ⇒ 463,533 GJ (2.1%減)
 461,989 GJ (2.4%減) ※
 エネルギー消費原単位：16.57 L/m² ⇒ 16.10 L/m² (2.8%減)
 16.20 L/m² (2.2%減) ※

(期間 冬期：12月1日～3月31日) ※Common Nexus 除く

	エネルギー消費原単位[L/m ²]		最大電力[kW]		最低(ベース)電力[kW]	
	R6 ⇒ R7年度	【前年度比】	R7年度	【契約電力比】	R7年度	【前年度比】
①東山	15.18 ⇒ 14.79	2.6%減	15,220	86.4% 1/23 11時	7,080	100% 3/29 4時
①東山※	15.18 ⇒ 14.92	1.6%減				
②鶴舞	21.08 ⇒ 20.44	3.0%減	6,890	83.1% 2/25 11時	3,380	99% 2/29 1時
③大幸	6.67 ⇒ 6.39	4.1%減	390	83.3% 2/12 14時	130	100% 12/12 23時



【月平均気温差 R7-R6】 12月：+1.2℃、1月：-1.3℃、2月：+3.3℃、3月：+0.6℃

<考察>

R7年度は、1月の平均気温が前年度を下回ったが、12月、2月及び3月はいずれも前年度を上回った。このため、冬期全体では暖房負荷が小さくなり、エネルギー使用量の減少につながったものと推察される。

また、冬期の省エネポスターによる適切な温度管理の啓発についても、省エネ効果に寄与したものと推察される。